

基盤環境委員会

政策課題

1. 公共施設の適正配置計画の策定
2. 災害に強い地域づくり
3. 環境と共生したまちづくり

行政視察の報告

公共施設の適正配置計画の策定

東京都西東京市

西東京市の概要

平成13年1月に田無市と保谷市の対等合併によって誕生。

人口 19万5千人

面積 15・85km²

人口密度

12,273人/km²

合併により狭い市域の中で同種施設の重複や配置バランスの偏在などの課題があった。

適正配置計画の策定と取り組み

合併に伴う財政的な支援措置の段階的な縮小、高齢化の更なる進展に伴う福祉関連経費の増加など、厳しい財政状況が見込まれる中で、現在の施設配置状況のままで維持管理コストを負担し続け、さらには老朽化等に対応する改修更新コストも捻出していくことは、市財政にとって極めて大きな負担であることから公共施設の適正配置計画（施設ごとの課題を整理するとともに統廃合を含めた今後の整備方針を定めたもの）の策定は避けて通れない課題であった。

平成23年3月に基本方針を策定し、同年11月に具体的な取り組みを定めた適正配置計画を策定した。

この計画は、将来にわたる施設需要や市全体の施設の量、維持管理コストの視点などから策定されている他、



西東京市役所での様子

平成35年までを短期・中期・長期の3区分に分けて、それぞれ取り組み内容が記載されているのが特徴である。

現在の具体的な取り組みとしては、比較的近くに存在する施設の機能の集約と新たな施設利用のために市民との意見交換会を行い、合意形成を目指している。

このような公共施設の適正配置等は、高山市においても喫緊の課題であり、計画的な取り組みが重要であることから、第八次総合計画への位置づけが必要であると考える。

環境と共生したまちづくり

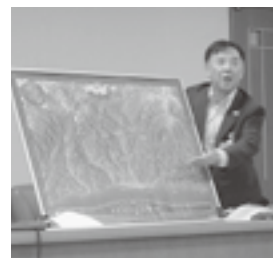
新潟県糸魚川市

「ジオパーク」によるまちづくり

「ジオパーク」は地形や地層、火山などの地質的な特徴を保護するだけでなく、学習活動や「ジオツーリズム」など観光を通じて科学の普及や地域振興につなげる取り組みであり、ユネスコの関係団体による審査、認証を受けた地域のことである。

新潟県糸魚川市では、1987年にフォッサマグナと地質開発構想を策定し、官民一体となって、フォッサマグナパーク（断層露頭）整備を行い、2008年に「日本ジオパーク」に認定された。

その後、ジオパーク推進市民の会設立や協議会を設立し準備を進め、2009年日本で最初の「世界ジオパーク」に認定された。糸魚川市では、これ



糸魚川市役所でジオパークについて説明を受ける

までジオ（大地・地球）エコ（環境・動植物）ヒト（歴史・文化・伝統）を組み合わせ、認定を目指し、市役所内の交流観光課に「ジオパーク推進室」を設置し行政主導で取り組んできた経緯がある。また、地域の活性化に繋げようと、

① 巡るⅡガイド付き観光バスで一日観光地めぐり

② 学ぶⅡ学習支援、姉妹ジオパークへの中学生海外派遣事業、ジオパーク検定（ガイド養成）

③ 食べるⅡ学校ジオ給食の日（毎月第一水曜日の地産地消メニュー）、ジオ海鮮丼などの地域特産品を使ったメニュー開発

④ 息づく歴史と伝統Ⅱ

糸静線と塩の道の整備、おてこ舞、歩荷など伝統芸能保存

「まちづくり」においても、市民と行政が一体となり、積極的に取り組んでいる。

高山市においても笠ヶ岳を中心に6500万年前の地層があり、地質学など教育学習としての価値や観光資源としての地域の活性化に繋がる可能性があると考えられる。今後「ジオパーク」認定を目指すためには、意識の醸成など官民一体となった取り組みがさらに必要である。

ジオパークとは

ジオパークの3要素

保護 教育、研究
ジオフォーリズム（見学旅行）

